

多種多様な石仏が安置された 高野山石仏群

(家族向・一般向)

（家族向・一般向）

西伊豆・松崎から県道南伊豆松崎線をバスで15分ほど行つた所に八木山という集落がある。かつて山を焼いて開拓したために“焼山”とよばれていた。ここからさらに3kmほど高野川沿いに山へ入ると、奇岩がそぞり立つ静寂境がある。ここを高野山といい、その昔、真言密教の靈場であつた所で、たくさんの石仏が苔むしてたたずんでいる。

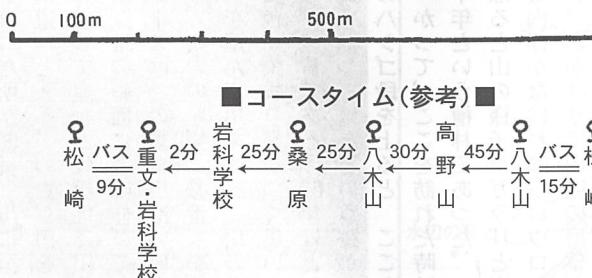
かつては弘法大師もここを訪れたが谷の深さがもの足りないなどの理由で立ち去り、紀州（和歌山県）に行つて高野山を開いたという。毎年3月31日の祭りには近郷近在の里人たちが集まり、昔は露店が出るほど賑わつたが、今は訪れる人も少なく、庶民信仰の秘境となつている。

高野山は西伊豆では松崎町門野の富貴野山宝蔵院（13頁参照）に次ぐ石仏の宝庫と言われている。200体以上もある宝蔵院には数の上では及ばないが多種多様の点では高野山の方が興味深い。

松崎駅から八木山行のバスで15分、終点で下車。そのまま県道を行き、草庵跡の正面の階段を登ると右側の真暗な岩室に弘法大師像、その前に1体あり、台座に安政四年（1857）と刻まれている。草庵跡から右の岩を登ると薬師如来、弥勒菩薩、聖観音の3体があり、さらに、切り立った岩の間を登つた所に阿弥陀如来（頭が欠落）虚空藏菩薩、阿閦如來の3体が祀られている。急斜面で滑り易く、巨岩が何かスリップしたようだ。



▲高野山石仏群



▲桑原の旧街道

桑原のバス停に出ると道路沿いにたくさんの地蔵石仏が並んでいる。途中に石仏が3体安置されている。川を左下に見てバス道から中村の旧街道に入ると、公民館の裏手の道沿い（天田家の敷地内）に子育觀音と十一面觀音石仏がある。所どころになまこ壁の家を眺めに着く。ここからバスで松崎へ戻つてもよいが、時間があれば牛原山麓遊歩道（③参照）を長八美術館・松崎へと歩いてもいい。

歩程 約2時間10分

風早橋の手前から左の林道へと入る。高野橋の三叉路には地蔵石仏が石室に納まり、道するべとなつていて。ここを左に折れ、高野川沿いに上つて行くと、目の前に大きな奇岩が迫つてくる。小さな橋を渡つて50mほど上つた右手に入口がある。石段を上るとすぐに「高野山」の扁額がかかるコンクリート製のお堂が建つてある。苔むした石段を上つた右手に「南無阿弥陀仏」の石碑と2体の童子を従えた毘沙門天石仏がある。

石段を下れば修驗者の草庵があつたという広場に出る。すぐ左手の岩室には釈迦、文殊、不動の石仏が安置され、釈迦坐像の台座に「安政五年・峰村講中」と刻まれている。

草庵跡の正面の階段を登ると右側の真暗な岩室に弘法大師像、その前に1体あり、台座に安政四年（1857）と刻まれている。草庵跡から右の岩を登ると薬師如来、弥勒菩薩、聖観音の3体があり、さらに、切り立った岩の間を登つた所に阿弥陀如来（頭が欠落）虚空藏菩薩、阿閦如來の3体が祀られている。急斜面で滑り易く、巨岩が何かスリップしたようだ。

